

## 60 歳代 男性

【既往歴】：閉塞性動脈硬化症、糖尿病性腎症、生体腎移植後、糖尿病、高血圧

【現病歴】：左下腿の軽微な傷から壊死性筋膜炎を発症

### 【当科初診時】



左下腿内側を中心に皮膚壊死を認め、  
下腿全体に発赤・腫脹がありました。

### 【経過】

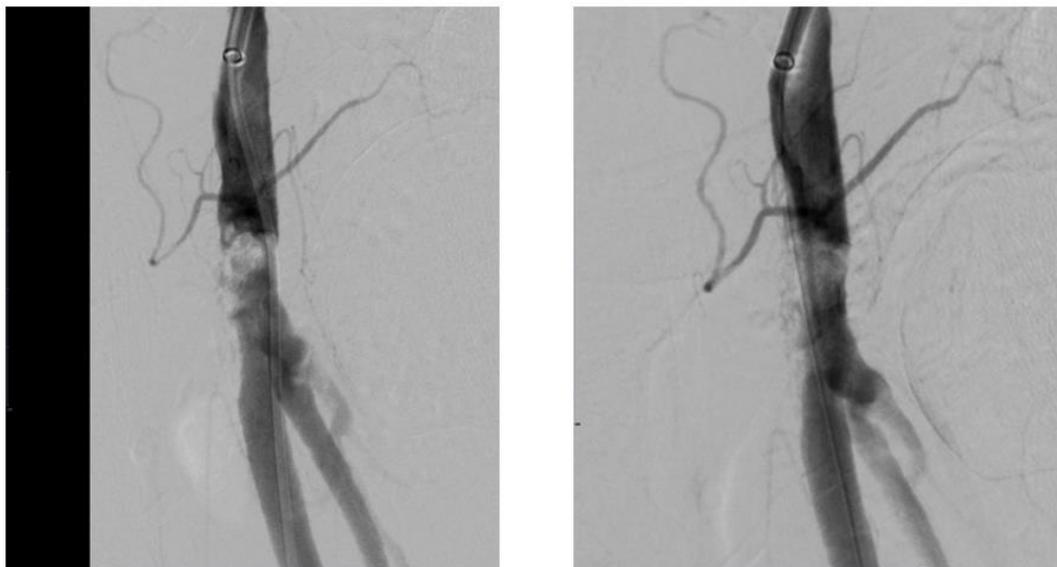
- ・感染の制御（形成外科による壊死、感染創の除去、皮膚移植術）
- ・下肢血流の改善（放射線科による血管内治療）
- ・全身管理（腎臓内科による透析を含めた全身管理）
- ・リハビリテーション（整形外科）

が行われました。

## 【下肢血管内治療】

治療前

治療後



クロスサーを併用し、総大腿動脈の石灰化狭窄が改善しています。

## 【植皮後1か月(退院時)】



退院時には上皮化完了しており  
杖補助下での歩行も可能になりました。

2ヶ月半の入院治療のち退院。

腎移植後の壊死性筋膜炎の報告は本邦で4例でしたが、大切断を回避し歩行機能が温存できたのは、文献を渉猟した限りでは当症例一例のみでした。

(2020年12月 第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会にて発表)



## 【皮膚移植後半年】

お一人で車を運転して  
外来へ通院されています。